

緑の香りかぐわしい林間から山巔へ 大菩薩嶺

実施日 2012年6月1日(金)～2日(日)
 天候 1日 曇のち雨 2日 晴
 リーダー 若村 勝昭
 参加者 若村 貴世子、若村勝昭、伊東勝昭、伊藤久雄、石原勝正、関塚七海 計6名
 費用 JR2,220円(高尾起算)、タクシー1,700円、バス300円)
 宿泊費7,000円 合計11,200円
 タイム 1日 塩山駅(9:56～10:00タクシー)上日川峠(10:50)昼食(13:00～13:20)介山荘(13:50) 泊
 2日 介山荘(8:00)大菩薩嶺(9:15～9:25)丸川峠(10:30～10:45)大菩薩峠登山口(13:10)大菩薩の湯(13:30～15:00)塩山駅

1日 上日川峠までタクシー。「日川」は“ひかわ”か“につかわ”かとタクシーの運転手さんに聞くと「両方を使っています。どちらでもいいんですよ」とのこと。車を降り立ち、ゆっくり身支度して出発。

左側の峠への道へ入るとすぐ、後ろのメンバーから「道が違うよ！！今日は石丸峠経由で介山荘だよ」と声がかかる。あわてて、計画書のコピーを見ると、なるほどそのとおり。間違いました。ゴメンナサイ。

右側の林間の緩やかなくだり道を辿る。ひとしきり下って親水公園からは登り道。この公園は水遊びやキャンプに好適。今度来てみよう。

ゆっくり登り、途中からの雨に雨具を着たが大した降りにはならず、小屋に着く。

小屋は新しく清潔、今日はこぶし会貸切で1部屋2人のゆとり。

夕方の晴れ間に、夕日と富士山を楽しんだ。夕食時には介山荘3代目(6歳)の歓迎の口上あり。3歳のマナちゃんは恥ずかしくて部屋には入らず、入口まで。



2日 ゆっくり朝食、卵かけごはん。

富士山が左後方に見えるはずだが、残念、雲の中。



新緑の緑をめでつつ、路傍の小さなスミレにもまなざしそそぐ。

大菩薩嶺頂上から下りになると、ミツバツツジのつぼみが目立ち始め、下るにつれ、満開の群れにめぐり合う。思わぬ花の競演に歓声を上げる。

丸川峠の小屋前でゆっくり休憩。何年か前にはここで忘年山行をやり、夜の宴会で山の歌を合唱したのを思い出す。



峠からひとしきり急こう配を降り、ようやく車道。もう一歩きして、温泉に汗を流す。

皆さん、ありがとうございました。

(記・若村 勝昭)

(写真提供・伊藤久雄/石原勝正)

